



送信先：大津・彦根地区報道機関  
報道関係者 各位

## イベントに終わらせない稲作体験学習を目指して ―田植えを通して食と農をめぐる環境について考える―

5月4日、5日、教員を目指す学生達が農業体験学習で田植えを行います。

	日時	内容	場所
5月4日（祝・水）	8：30～ 16：00	田植え体験 1グループ1時間半の予定で、 2日間で9グループが体験	大津市 大石淀1丁目2
5月5日（祝・木）	8：30～ 14：30		

この取り組みは、教育学部教養科目「環境教育概論」で行うものです。今回、学生達は自然環境に配慮して栽培される「みずかがみ」の田植えをし、今後は稲刈りや、収穫したお米を使っての炊飯などを行い、その体験をベースに食と農をめぐる環境についてグループでの探究的な学習を行います。

小学校などで行われる米作り体験学習では、生産者の田んぼで行う体験活動の場合、学校から田んぼまでの移動時間などの制約で、米作りの途中の工程を子どもたちが知らないまま、田植え、稲刈りのみがイベント的に実施されることもあります。

子供たちが稲の成長の様子や生産者の仕事や思いなどを学び、体験学習が単なるイベントにならないように、教員を目指す学生には、稲の成長の様子や管理方法、田んぼの生き物など米作りを取り巻く様々な環境を体験的に学ぶことを通して、食と農をめぐる環境について考える力を身につけることを期待しています。

また、生産したお米を使い、滋賀大学オリジナルブランドの日本酒「琶ぐくみ(はぐくみ)」を昨年度に引き続き、学生とともに仕込み、製造・販売を行う予定にしています。

このプロジェクトでは、地域の生産者である植村 喜代司（うえむら きよし）様、北島酒造株式会社（湖南市：蔵元 北島 輝人 きたしま てるひと）様に多大なご協力、ご指導を頂いています。